



2024年2月22日

各位

株式会社横河ブリッジ

国内橋梁業界で初のグリーンスチール使用

国土交通省九州地方整備局が発注する「福岡 201 号新朝倉橋（上り線）外上部工工事」（※1）において、マスバランス方式を適用したグリーンスチール（※2）を使用することとなりました。本工事は福岡県田川郡香春町において「新朝倉橋」「鏡山跨線橋」の二つの鋼橋を建設するもので、今回、国内橋梁業界において初の使用例となります。本工事は入札時に価格および価格以外の要素を総合的に評価して落札者を決定する総合評価落札方式で発注されており、このうち技術提案のテーマのひとつとして「カーボンニュートラルの実現」が設定されていました。このため(株)横河ブリッジは技術提案のひとつとして「グリーンスチールの使用」を提案したものです。

当社は、二橋に、「グリーンスチール」として日本製鉄(株)製の「NSCarbolex® Neutral」（鏡山跨線橋）と、(株)神戸製鋼所製の「Kobenable® Steel (Premier)」（新朝倉橋）を使用いたします。いずれもマスバランス方式により鋼材製造における CO₂排出量を 100%削減した鋼材であり、SDGs（持続可能な開発目標）に向けて、社会における温室効果ガス排出量削減に寄与するものです。

当社は、低炭素経済への移行に貢献することを目指しており、CO₂排出量削減と効率的な資源管理を事業活動の目標に組み込んでおりますが、今般の橋梁入札工事へのグリーンスチール使用をきっかけとして、鋼材など原材料の製造過程の CO₂排出量（スコープ3）についても関係先と協力しながら削減に努めてまいります。

（※1）工事概要

工事名：福岡201号新朝倉橋（上り線）外上部工工事

工事場所：福岡県田川郡香春町鏡山地先

工事内容：構造形式：

新朝倉橋【鋼単純鋼床版箱桁橋、橋長：58.0m、最大支間長：56.6m、支承：4基】

鏡山跨線橋【鋼単純鋼床版箱桁橋、橋長：54.5m、最大支間長：53.1m、支承：4基】

架設工法：トラッククレーン工法

（※2）マスバランス方式を適用したグリーンスチールとは

鉄鋼メーカーが実施した追加性のある削減プロジェクトによる GHG（Green House Gas 温室効果ガス）排出削減量または CO₂排出削減量を組織内でプールし、その削減量を任意の製品に配分して証書と共に供給する鉄鋼製品であり、一般社団法人日本鉄鋼連盟が制定するガイドラインに準拠します。マスバランス方式を適用したグリーンスチールを購入した取引先は、自社のスコープ3排出量を低減することが可能とされています。

新朝倉橋（左）、鏡山跨線橋（右）の完成イメージ図



お問い合わせ先

[本リリースに関するお問い合わせ先]

株式会社横河ブリッジ 総務本部総務第一部 電話 047-437-8000

[グリーンスチールに関するお問い合わせ先]

日本製鉄株式会社 総務部広報センター 電話 03-6867-2146、2135、2977、3419

株式会社神戸製鋼所 総務・CSR部 秘書広報グループ 電話 03-4739-6010

以上